



### 主な内容

- 2~3……2017夏のイベント
- 4……後期高齢者医療制度 5……年金通信
- 6……看護専門学校 8……NHKラジオ体操を名張で開催

発行/名張市秘書広報室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 FAX 0595-64-2560 ✉pr@city.nabari.mie.jp

## 障害のある人との会話に やさしさを

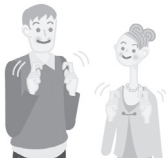
障害のある人の中には、コミュニケーションが取りにくく、日常的に不便や不安を感じている人が少なくありません。市では、障害者に限らず、誰もが必要な情報を入手しやすく、コミュニケーションが取りやすいまちを目指す条例を6月議会で制定しました。

今号では、障害のある人や支援者の話を通して、誰もが容易にコミュニケーションができる社会について考えます。

☎ 障害福祉室 ☎ 63-7591 FAX 63-4629



### 手話その他コミュニケーション手段 に関する施策の推進に関する条例



手話、音訳、要約筆記、筆談、点字など障害者が情報を得やすい環境を整備し、障害の有無に関わらず、個性と人格を尊重することを基本理念としています。条例では市や市民の責務を示して、障害のある人への合理的配慮(※)を求めています。

## 伝えたいことが伝わるまちになって欲しい ~それぞれの思い~

### 手話をひとつの言語だと認識して欲しい

名張市聴覚障害者協会 会長 南恵美子さん

手話を使って生活をしている私たち(ろう者)は、見た目は健常者となんら変わりはありません。だから、耳が聞こえないということに気付いてもらえずに、無視していると思われて相手を怒らせてしまった苦い経験があります。

でもうれしいこともあって、私がある喫茶店に入ったとき、店員さんが私に気付いて、さっと紙を置いて筆談で注文を

聞いてくれたこともあります。

聴覚を失った者にとっては、日本語よりも、手話が言葉になっています。また、世界的に見ても言語と認められています。私たちのことを知ってもらい、コミュニケーションができる人が増えると、ろう者にとって住みよいまちになると思います。



### 行政とも協力しながら暮らしやすい社会へ

名張市視覚障害者協会 会長 山森克彦さん

20歳の頃に視力を失い、今では鍼灸師として、生計を立てています。

目が見えない人にとって点字が文章を読むための言語になります。点字の習得には、3年ぐらいいは掛かると言われていて、特に年を取ってから点字を覚えることは、大変なことです。最近では音声で文章を読み上げる機械なども出てきていて、こういった道具の普及も、目が見え

ない人にとっての助けになると思います。

障害を持つ者の暮らしは、昔と比べて法律などが整ってきて、少しずつ改善されていると感じます。これは、これまで先輩たちが自分たちの生活を良くするために尽力してきたからだだと思います。これからも、行政とも協力をして、少しずつ暮らしやすくなっていくことを期待します。



### コミュニケーション手段が増えれば良い

要約筆記サークル「カワン」代表 常木春枝さん

要約筆記は、話している言葉の要点をまとめて、文章にして見せる作業のことです。私はボランティアとして、講演会の内容を通訳しています。

この活動を行いながら、障害のある人との筆談に使えるよう、携帯型のホワイトボードの普及に努めています。メモ書きとして普段から使えるほか、聴覚障害者との筆談にも使えます。

今後、障害のある人が、円滑にコミュニケーションを図るための手段が増えれば良いと思います。また、まちの保健室

や市民センターで、障害者にとって必要な情報が収集できるようにすれば、生活がしやすくなるのではないのでしょうか。さまざまな対策がなされて、障害者のある人が思いを伝えることができる社会になって欲しいです。



※合理的配慮…障害のある人が日常生活をする上で障壁となるものを取り除くための工夫や配慮を、負担にならない範囲で行うこと。「障害のある人も共に暮らしやすいまちづくり条例」の中で明記している。